

米を栽培 学生に無償提供

米価高騰が学生生活に深刻な影響を与えているため、弘前大学は五所川原市の同大付属金木農場の水田で栽培・収穫した米を12月にも学生に無償で提供する。

同農場の休耕田56㌥を再生し、教育や研究で使ってきた水田310㌥と合わせた計366㌥で、県産米「つがるロマン」や富山県が開発した「てんたかく」を栽培する。15㍶の収穫が見込まれ、そのうち10㍶分を学生に提供。5㍶袋

物価高 弘大が支援策

で2千個、または2㍶袋で5千個を用意する。9月末～10月の収穫時には学生アルバイトを採用し、農業に理解を深めてもらう。

これまで同農場で教育・研究のため栽培し収穫した米は教職員に販売したり、金木農場で開く「農場祭」で有償で提供したりしてきたが今回、学生支援のため教職員への販売をやめることにした。

本年度前期（～7月）には、学生が学食で弁当やライスを

金木農場の休耕田再生

購入する場合、1食当たり50円を補助する事業も行う。米支援の事業費は、金木農場での取り組みも含め計約1千万円で、大学の基金を活用する。福田眞作学長は23日の会見で「物価高で経済的に困窮している学生が多い。早め早めの対応で支援したい」と語った。

同大は昨年、2千㍶分の米を100円で買える補助券を販売したが、地域の米不足に拍車をかける恐れがあるため、今回は補助券販売は見送った。

（菊谷賢）